

健康には住まいの

環境改善が必要

住環境改善推進協議会が都内でフォーラム

(一社)住環境改善推進協議会(長井克之



理事長)は、「第5回 医・食住健康フォーラム2018」を10月4日、東京都内で開催した。このフォーラムは毎年1回実施しており、今年で5回目。テーマに合わせて各業界の専門家を特別ゲストとして招き、健康と住まいに対して実例を含めた講演の他、健康住宅に住むオーナーの体験談とディスカッションを行った。

はじめに、長井理事長による基調講演「健康快適になる住環境の改善急務!」が行わ

れ、健康と住まいの関

係について紹介。続い

てゲスト講演が行われ、最初に保健学博士

の菅原明子氏が登壇。

酸化還元と住宅の健康

について、きれいな空

気の住まい環境、抗酸

化力の高い食べ物(煎

餅等)、五感の働きの

重要性等について解説

した。

続けて医療モールの

プロジェクトが「健康

」を訴求した健康住

宅に取組むキッカケと

なったとする一級建築

士事務所グッドデザ

インの牧野直子代表が

登壇。牧野氏は多くの

医療関係者との折衝に

よって、住まう人の健

康の大切さを体験し、

現在は、料理と健康の

建築家として活躍して

いる。

健康住宅に住むオー

ナーの体験談とディス

カッションは2名の

オーナーと菅原氏、長

井理事長が討論。そこ

でオーナー目線に立つ

た工務店の選び方や関

係者との人間関係、信

頼関係など、興味深い

話が披露された。

最後に長井理事長が

講演者の考え方、健康

住宅に住むオーナーの

体験談などから、健康

には住まいの環境改善

が必要であることを再

度、訴えた。そして作

り手、住まい手のコ

ミュニケーションや信

頼関係の構築こそが幸

せに繋がり、日本の住

まいを変える課題と確

認し、閉会した。